

廿日市市 大野地域 ウォーキングのしおり

文化



自然



歴史

史跡

イベント



昔、人は歩いていました。

今も、人は歩きつづけています。

歩いてみよう！はつかいち!!

はつかいち



戦国時代に、西の大内氏や陶氏と東の毛利氏との間で、争乱に巻き込まれた大野の地は、江戸幕府により五街道に次ぐ脇街道として、西国街道が古代山陽道にほぼ同じ経路で整備されました。今は、街道の面影は、向原の石畳みの道を復元したモニュメントと鳴川の石畳みに見ることができます。また、四十八坂は西国街道の難所として知られていました。大野地区の豊かな自然・歴史・文化に触れ遊歩道を歩いてみましょう。

大野西国街道を歩こう

N
4



世貞川
歌碑

山陽自動車道

山陽新幹線

もちや

三槍社
次郎屋敷跡

大頭神社
妹背の滝

JR山陽本線

国道2号線

残念社

ゆにひえの旅人に思いを馳せて、宮島口周辺を歩いてみましょう。

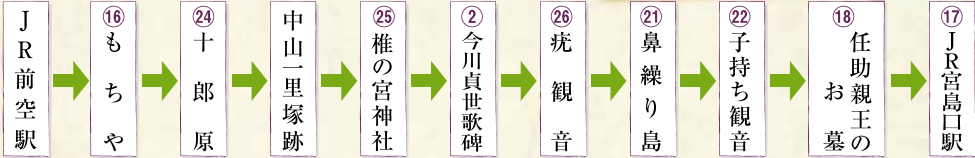
A JR宮島口駅発着コース

全行程 約3.5km 所要時間 約2時間



B JR前空駅発～JR宮島口駅着コース

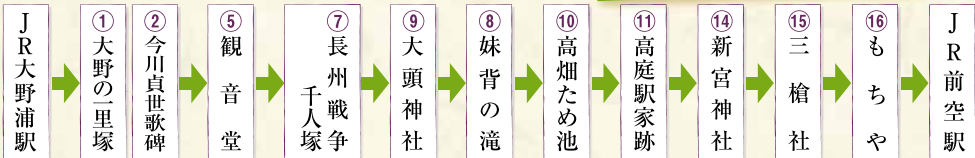
全行程 約7.5km 所要時間 約3時間



古代山陽道で万葉の時代を偲び、江戸時代の西国街道をたどりながらのウォーク

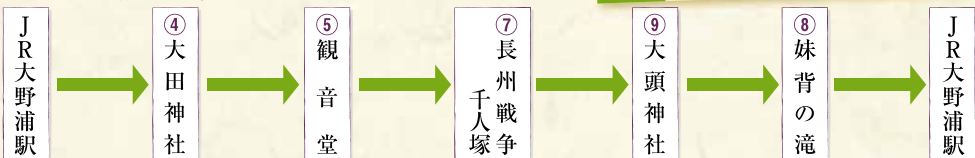
C JR大野浦駅発～JR前空駅着コース

全行程 約7km 所要時間 約3時間



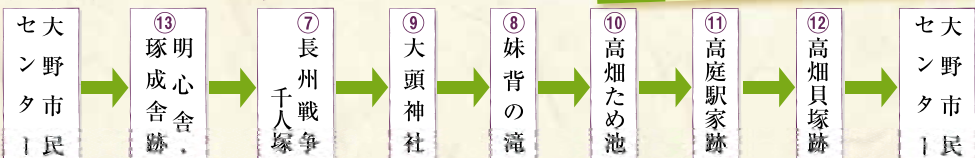
D JR大野浦駅発着コース

全行程 約5km 所要時間 約2.5時間



E 大野市民センター発着コース

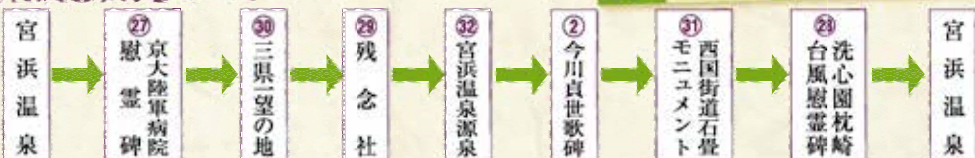
全行程 約4km 所要時間 約2.5時間



宮浜温泉でのんびり汗をながしての史跡めぐり

F 宮浜温泉発着コース

全行程 約3.5km 所要時間 約2時間



大野の史跡を歩いてみよう

1 大野の一里塚

江戸時代の街道には、一里（約4km）ごとに塚が作られ、旅人の旅程の目安とされてきました。大野の一里塚は中山と塩屋にあり（石碑が建てられています）、中山の一里塚は元安川の起点から五里、塩屋一里塚は広島から六里山口県境の小瀬川の一里塚まで三里にあたります。

2 今川貞世歌碑

今川貞世は足利幕府に仕えた武将であると同時に当代一流の文筆家でした。3代將軍足利義満



②

の命で、南朝勢力が強かった九州を平定するために九州探題として赴任する旅の紀行文を「みちゆきぶり」に記しました。応安4年（1371）に大野を陸路で通過し、大野の景色を詠んだ歌は4首あり、中山、大野浦駅、四十八坂の寺屋敷に歌碑が建てられています。文書に「大野」の地名が出てくるのは「みちゆきぶり」が最初です。

(中山)

とにかくしらぬ命をおもうかな
わが身いそじにおほのなやま
むかしたれかけにもせんとまく椎の
おほの中山かくしげらん
(大野浦駅)

おほのうらこれかととえば
山なしのかたへのもみじ
色に出でつつ

(寺屋敷)

浪の上藻塩やくかとみえつるは
あまの小船に炊く火なりける

3 上田宗箇遺髪塚

上田宗箇は、丹羽長秀の家臣として本能寺の変のとき、織田信澄を討ち取り名声を得ました。長秀



③

没後は豊臣秀吉の直参として九州征伐、小田原征伐で多くの功を上げましたが、関が原の戦いで西軍に与したため所領を没収されました。その後、紀伊の浅野幸長に招かれ1万石の客臣となり、宗箇57歳のとき浅野家の広島移封に従い、小方に1万2千石を与えられました。家督を譲った次男重政の死を嘆き、20日間絶食し88歳の生涯を閉じました。遺言により、串山で火葬し、骨は大野の瀬戸に流され、山上には遺髪を埋め塚として、当時の武人の慣わしとして松を植えました。宗箇は文化人としても有名であり、茶道では上田宗箇流の祖、作庭家としても縮景園などの名庭を残しています。

4 大田神社

大田神社は大頭神社の末社のひとつで、塩屋山祇社（祭神は鎌山祇尊）と呼ばれていました。享保14年（1729）に築造された大田新開の守り神として大田神社（祭神は大山祇尊）が建てられました。その後両社が合祀され大田社と呼ばれるようになりました。



④

5 観音堂（一石経塔と石仏）

一字一石経塔とは供養を目的に、お経を一字ずつ小石に書いて地中に埋め、その上に塔を建てたものです。この一字一石経塔は1803年に大野村の人たちが法華経を書写し埋めたものです。元は大野東中学校付近（鯛山）にあったそうですが、大野西小学校増築のためこの地に移されました。

観音堂の隣に多くの石仏が並んでいます。昔はこの近くの梅林の草原に88体並んでおり、これらを参拝すると佐伯88箇所巡拝に代えることができると言われていました。高速道路の工事に伴い、ここに



に移設されました。

6 小山三郎荒神社

大野五郎伝説の三男、三郎を祀った荒神社。伝説では現在の大野中学校辺りに住み、小山地区を



開拓したと伝えられています。伝説では、長男太郎は「鳴川」、二男次郎は「土井」、四男四郎は「中山」、末弟十郎は「鯛の原」をそれぞれ開拓したとされています。

7 長州戦争千人塚

慶応2年（1866）6月に始まった第2次長州戦争で、大野村では幾度も激戦が繰り返されました。長州軍は潮め手として松が原村から、妹背の滝に侵入し大手軍とで幕府軍を挟撃しようとした。最も激しかった合戦は6月19日の払曉戦で、滝の上下で銃撃戦が行われ、紀州新宮藩士、橋本角兵衛ほか6名を始め多くの犠牲者が出ました。これらの藩士の墓は、無名の兵士と共に葬られ、「千人塚」と呼ばれています。



8 妹背の滝

妹背の滝は古くは「めおと滝」と呼ばれていました。「妹背の滝」と呼び始めたのは、大正2年（1913）大頭神社を郷から遷座したのを機会に、滝を広く紹介することし、優美な響きのある夫婦を意味する古語の「妹背」を採用しました。

江戸時代に編纂された芸藩通志に、「雌雄滝、大野村に在り、雄は6丈3尺、其水壮なり、雌は廿七丈余にて、長けれども腕なり」と記されており、広島藩主も訪れた名勝です。



9 大頭神社

大頭神社は推古天皇11年（603）創建と伝えられる厳島神社の摂社です。祭神は国常立尊、大山祇尊、厳島神社の初代神職の佐伯鞍職です。「安芸国神名帳（927）」には「佐西郡二位五前」



として記載され、古くから位階の高い神社でした。大頭神社には厳島神社と縁の深い神鳥の「烏喰祭」「四鳥の別れ」という神事が伝えられています。大正2年に郷地区から現在地に遷座しました。

10 高畑ため池

江戸時代から灌漑用として使われたため池です。「芸藩通志」にも「高畑池」として記されています。シーズンにはピンクの睡蓮で池面が覆われます。

11 高庭駅家跡

古代山陽道には約16km毎に駅家がおかれまし。高畑は「高庭の駅家」が置かれた地とされています。その後駅家の移動が見られ、延喜式(927)には濃於駅が載っており、これが高庭駅家の後継と考えられます。天平3年(731)肥後国の大伴熊凝という18歳の青年が都に上る途中、高庭駅家で病を得て亡くなりました。このことを伝え聞いた筑前国司山上憶良が、青年の心情を述べた歌6首が万葉集に載っています。昭和45年に憶良の歌一首を刻んだ歌碑が建てられました。



出でて行きし日を数えつつ 今日今日と 吾を待たすらむ父母らはも

12 高畑貝塚跡

大正時代の終わりころに発見された貝塚の跡です。貝殻に混じって約2千年前の女性の頭蓋骨や弥生式土器の破片などが発掘されました。

13 明心舎・琢成舎跡

明治5年(1872)の「学制一頒布の1年後に、大頭神社神職松原里美氏宅(郷地区)に、大野最初の学校「明心舎」が設立されました。明心舎は翌年鯛の原に移り大野東小学校の前身となりました。明治9年に再び松原氏宅に「琢成舎」が設立され、大野西小学校の前身となりました。



14 新宮神社・次郎屋敷跡

大野五郎伝説の総領である次男の次郎が祀られている神社です。その東側に次郎の屋敷跡と伝えられる空地があります。大頭神社の縁起書によると、次郎は約100m四方の堀を巡らした屋敷に住み、人々は「お土居」と呼んでいたそうです。これが現在の地名土井と

して残っています。縁起書に書かれた屋敷の様子は中世の豪族の屋敷の姿であり、中世に有力な豪族がこの地に住んでおり、それが伝説として語りつがれたものと考えられます。



15 三槍社

三槍社は四つある大頭神社末社の一つで、「葉山祇尊」が祀られています。地元では水の神様として信仰の対象となっています。3



本の尾根が槍の穂先のように突き出した地形のため「三槍」の名がついたと言われています。

16 もちや

江戸時代の西国街道には大名や役人が宿泊・休憩する本陣、間の宿が有りました。この他に一般人が寛ぐ茶屋もありました。大野には小田の口に間の宿と、高見に「もちや」と呼ばれる茶屋がありました。



17 宮島口

宮島口周辺は古くから「赤崎」と呼ばれていました。現在の宮島口駅から海岸にかけては、宮島に住む人達の墓地になっていました。明治30年に広島―徳山間に鉄道が開通し、「宮島駅」が設置されま

した。この頃、宮島口の墓地を御室山に移し、駅前大通り、棧橋の建設などが行われ、現在の宮島口の原型ができました。



18 任助親王のお墓

任助親王は伏見宮貞敦親王の第四子で、後に後奈良天皇の御猶子となられ、天文8年(1539)に、十歳で京都仁和寺の二十世門跡を継がれました。天正2年(1574)御法流再興のため九州に下られる途中、宮島大聖院に立ち寄られ10年間滞在されました。天正12年(1584)に60歳でおかれになりましたが、生前対岸の赤崎の景色を愛でられ墓所と定められていたと伝えられています。



19 誓真大徳の墓

誓真大徳は徳行高く、「宮島杓子」の製法を島民に伝えたり、「誓真釣井」と呼ばれる井戸を10ヶ所作り水不足の解消に努めました。寛政12年(1800)60歳で亡くなりました。



20 迎え地蔵

宮島は鳥そのものが神であるため、死者の埋葬は対岸の赤崎で行われました。迎え地蔵は元は宮島口の海中に立ち死者を迎え導いて下さるお地蔵さんでした。宮島口周辺の区画整理に伴い現在の地に安置されました。



21 鼻練り島

深江湾に浮かぶ二つの岩の小島は鼻練り島、二つ山、橋柱などとも呼ばれています。橋柱とは、大人が宮島に渡る橋の橋脚として作ったという伝説からきています。一つの島には洞穴があり、以前は水難加護を祈って石の観音像が安置されていました。参詣に不便なため対岸の観音崎の頂きに移されました。

22 子持ち観音

観音崎の麓に別荘を建てた佐々木伝助氏(旧沖美町出身)が観音信仰篤く、山頂の観音像との機縁を喜び、腹中に石の観音像をおさめた高さ26mの観音銅像を铸造させ、明治45年(1912)に開眼供養が行われました。山頂に立つ観音像は大野瀬戸を挟んで厳島神社の朱の大鳥居と相對しています。



23 延命寺

天文4年（1535）に僧樹岳が草案を結んだと伝えられています。その後、大聖院に滞在されていた任助親王が、御室山の墓地造営の刺銀で寺を造営し、嚴島の人々の菩提寺にするよう遺言されました。慶長元年（1596）に洞雲寺から全室和尚を招請し万年山延命寺と号したと伝えられています。



23

24 十郎原

大野五郎伝説の末弟十郎が拓いたと伝えられています。十郎は鯛の原の荒神社に祀られています。収穫が終わった後、農耕馬による競馬が行われていたとのこと。



24

25 椎の宮神社 中山大歳社

大頭神社の末社のひとつで、大野五郎伝説の四郎と中山祇尊がまつられています。昔の中山地区は、椎の木が多かったので「椎の宮神社」と呼ばれるようになったようです。四郎は、伝説では中山地区を開墾したとされ、四郎峠の地名が残っています。明治12年（1879）に海岸に国道が作られるまでは、西国街道と呼ばれた重要な道でした。



25

26 いぼんのん 疣観音

弘法大師が全国行脚の途中立ち寄られたとき、疣の沢山できた人が通るのをみかけ、「難儀なことじやろう」と疣を全部とってあげ

たとの伝説が伝わり、疣落としの観音と信じられています。弘法大師は「はったい粉」がお好きだったそう、お礼には「はったい粉」をお供えするそうです。



26

27 京都大学原爆総合研究調査班 遭難記念碑

昭和20年の太平洋戦争終戦当時宮浜には大野陸軍病院があり、多数の原爆被爆者が収容されていました。

これら原爆患者の治療と調査のため京大の医学部・理学部からなる調査班が大野病院に滞在していました。9月17日22時20分頃、枕崎台風の豪雨により大野病院の中央を流れていた丸石川で、山津波が起こり陸軍病院の多くの建物は国道を越え海中

に没し、京大調査班の11名（調査班30名中）を含む156名が犠牲となりました。

慰霊碑は昭和45年9月21日に除幕式が行なわれました。記念碑のデザインは、3角形の壁4面が四方から誉え立つように組合されたもので、大地から空高く舞い上がる人間の復活を象徴する意図が込められています。広島県での被害が大きくなったのは、原爆によりの確な気象情報の把握・伝達が出来なかったことが一因とされています。



27

28 洗心園枕崎台風慰霊碑

昭和20年12月8日、大野出身の大下准尉は犠牲者の鎮魂のために石の供養塔（高さ約1.5m）を旧病院東側の海を見下ろす所に建立しました。その後、この供養塔は雑



29 残念社

草に埋もれた状態となっていたため、洗心園の理事長であった四田増五郎さんが昭和45年に洗心園に移設すると同時に、石文碑と観音像を建立されました。現在に至るまで命日（9月17日）には法要が行われています。



見得周防山
(見えたり周防の山)

興窓時独笑
(興窓時に独り笑う)

昇降人馬難
(昇降人馬くるしむ)

吉田松陰が旅の途中で腰掛けたと伝えられる大岩。松陰が四十八坂を詠んだ詩は

30 吉田松陰腰掛岩
三県一望の地

慶応2年（1866）の第2次長州戦争において、四十八坂も激戦地となりました。7月9日幕府軍宮津藩の依田伴蔵が軍使として単騎長州陣に赴く途中、四十八坂で長州軍に狙撃され「残念」と大声を発して倒れました。土地の人々はその死を悼み、洞を建てて「残念さん」と呼びお祭りをしました。



塩屋から鳴川までは四十八坂と呼ばれ、昇降が多く西国街道の中でも難所でした。坂道は雨で道が流されぬよう石畳が敷かれた場所がありました。平成3年（1991）、向原地区の学術調査の結果、大石をびっしり敷き詰めた道幅は約2.5mの石畳道が発掘されました。現在は簡易舗装され見ることができませんが、石畳道のモニュメントが作られ往時を偲ばせてくれます。

31 向原の石畳
石畳のモニュメント

があります。これは安政元年（1854）ペリー艦隊での密航に失敗し、江戸から萩へ護送されたときに詠まれたものです。またこの地は風光明媚で、安芸、周防、伊予の国が展望できることから三県一望の地と呼ばれています。



32 宮浜温泉源泉

宮浜温泉は昭和40年（1965）に開設されましたが、その後湧出量が減少したため、新源泉が平成5年に開発されました。源泉の深さは1,400mのとことです。

源泉の周囲に敷き詰められている円柱型の石は、ボーリングで掘削された岩で、この石から地層深くまで花崗岩であることがわかります。

本誌に収録させていただいております建物、神社、仏閣、神像、仏像などにつきまわしては、その案内であり、社寺などの都合等により拝観できないものもありますのであらかじめご了承下さい。また、すべての写真はイメージとなります。

おおの自然観察の森

マンサク湖

○自然観察センター



自然観察センター

白糸の滝
海に見える杜
美術館

推の宮神社
(中山大歳社)

山陽自動車道

疣観音
今川貞世歌碑

新宮神社・
次郎屋敷跡

十郎原

もちや

中山の一里塚

大頭神社

枅かけ
神社

高庭駅家跡

高畑ため池

大野IC

大野東小

○大野東中
蓮華寺

三槍社

○中山トンネルと中山峠

山陽新幹線

大野市民
センター

○はつかいち市民
大野図書館

西教寺

○永慶寺
薬師堂

毛保稲荷社

宮島工高

前空

ちゅーピーパーク

任助親王のお墓

延命寺

迎え地藏

誓真大徳の墓

宮島口

至 広島

国道2号線

浅野長勲の別邸跡

宮島口

広電宮島線

鼻繰り島

子持ち観音

廿日市市観光

ボランティアガイドわかば

☎0829-31-5656

(はつかいち観光協会内)

佐伯観光

ボランティアガイドの会

☎0829-72-0690

(佐伯商工会内)

大野歴史ガイドの会

☎0829-30-3533

(はつかいち観光協会 大野支部内)



観光ガイドのご案内

廿日市市内（廿日市、佐伯、大野地区）の神社仏閣、施設、街道などをめぐる観光ガイドを行っています。時間や料金、対象など何でもお気軽にご相談ください。



宮浜温泉

桜の街 廿日市



大田神社



ちゅーピーパーク

写真はすべてイメージとなりますので、ご了承ください。

お問合せ

一般社団法人はつかいち観光協会

TEL : 0829-31-5656 FAX : 0829-31-3822

〒738-0015 廿日市市本町5-1 商工保健会館

佐伯支部

TEL : 0829-72-0449
住所 : 廿日市市津田858

吉和支部

TEL : 0829-77-2404
住所 : 廿日市市吉和3425-1

大野支部

TEL : 0829-30-3533
住所 : 廿日市市大野1-1-1